



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸言

第二十三回校内弁論大会に寄せて

教頭 鶴田 紋太郎

二月十三日に第二十三回校内弁論大会が行われ、今年も心に残っている生徒の弁論が数多くありました。第二十三回大会は創立百周年を記念して第一回弁論大会が実施されました。第一回は記念大会ということもあり各学年四名の弁論者を選出し、計八名が弁論を行いました。第二回大会から現在と同じ各学年三名の弁論者を選出し、計六名が弁論を行っています。

私は、今でも心に残っている生徒の弁論があります。第二回大会（平成七年）から第八回大会（平成十三年）まで鶴丸高校に勤務していた私は、この間の三年間生徒会活動の担当をしてきたということもあり、この弁論大会は大好きな生徒会行事の一つでした。その時に聞いた生徒の発表内容は、自分のこと、身近な人のこと、世の中のこと等テーマはそれぞれですが、すべての発表について、決して生徒だけでなくみなさんの倍以上生きてきた私たちでも共感できる内容の発表であったことを覚えておきます。そして、その弁論内容について、根本的な部分で共通することがあると感じていました。いくつか皆さんに紹介します。

第二回大会の最優秀賞の演題は、「I was born」。私達は生まれさせられた。もしそうならば、私達は何かをするために生まれてきたのです。意味を持って生まれてきたのです。自分の生の意味を受けとめ一杯生きていくことが、私達が生まれさせられたことに對する唯一の義務ではないでしょうか。とその生徒は私達に問いかけました。

第三回大会の最優秀賞の演題は、「ゼロコンマいくらかの私」。目を覚ますと、憂鬱な一日が両手を広げて私を待ちかまえている。私はぼんやりと一日に抱きすくめられて流されていく。そして毎日が過ぎていく。毎日、毎日、毎日、いつからだったか、こんなふうになつちやつたの。バ

スに押しこまれて友達に会う。すごいね、鶴丸だね、頭イন্দだね。私はそんなことないよ、と軽く笑ってみせる。そして窓ガラスに映った自分の顔を見る。タクシーの運転手か言う。すごい頭脳持っているんだね。私は何も言わずに微笑んでみせる。そして昨夜予習しなかった数学を、ちよつと悔やんでみたりする。：「いつ勉強しているの？」「うん、全然していないよ。」だけれど、ちよつと違っている。私ぐらいできる子はたくさんいたし、人気者になるわけでもなかった。：

鶴丸高校に入学して多くの人が感じるであろう、鶴丸高校生として過ごしていくことの悩みを題材として、そのこの意味を私達に問いかけてきました。そして最後に：「普通な私は、普通だけれどゼロなんかじゃない。私は小数点を忘れていた。ゼロコンマいくらかの数値を。ゼロコンマ1が十個集まれば1になる。流されていく毎日の中でゼロコンマいくらかの喜びが、いつか1という自信になって私を光らせてくれるかもしれない。今はゼロコンマいくらかの私。いつか1になって2になって私を存在させる。：とその生徒は、私達に決意を述べてくれました。

第七回大会の最優秀賞の演題は「生きる」。私は今、必死で生きていくと胸を張って言うことができません。苦しいことはよけて通り、友達に合せて道を選ぶ。親に怒られてやるせない気持ちで壁を殴ったあと、少しヒリヒリする拳を見て、本当に殴りたいのは自分だということに気がつく。山田かまらの詩にこんな詩があります。（詩については省略します。）一度きりの人生、かまらの言ったとおり、自分の人生は誰に言われようとして自分生き抜くしかないのです。：

二・三年生の皆さんは、昨年の弁論大会のことを覚えていることと思います。最優秀賞は西村優奈さんの「17 セブンティーン」、優秀賞は並河咲希さんの「人工知能と心」と岡本葵さんの「Try something new.」でした。この三人の弁論に、多くの皆さんが共感したことと思います。

弁士の言葉に共感を覚えるのはなぜか。それは「生きる」ということ、あるいは「いかに生きていくか」ということがテーマになっているからではないか、つまり「根本的な部分で自分の今の思いや悩みと共通すること」があるからだと思えます。弁士の皆さんは、二十一世紀という時代を生きていくということ、ひとりの鶴丸高校生として生きていくこと、そんな中で埋もれてしまっている自分、どうしたらいいんだろうという心の叫びを私たちに問いかけています。そして、自分が存在することの意味、ゼロではない自分に次第に気付けさせてくれます。

「皆さんは、保護者や私達本校の職員にとって大切な存在であるとともに、無限大の可能性を秘めている。」とどんな言葉にして伝えても、今の皆さんには、なかなか伝わらないかもしれない。しかし、同じ境遇を経験している友達の話、先輩のアドバイスは妙に自然と受け入れられることでしょう。であるからこそ、この弁論大会はみなさんにとって、心の成長につながる素晴らしい生徒会行事の一つであり、今後も本校の伝統として受け継ぐべきものだと感じています。

※今年度の校内弁論大会は、クラス内審査、一月二十九日（月）の学年審査を経て、二月十三日（火）の七限目に本校体育館で開催予定です。なお、当日は次の六名の弁士が発表してくれそうです。（順不同）

- ・11R 坂元 千帆
- ・16R 別枝 寛仁
- ・18R 重信 茉桜
- ・21R 足立 萌絵
- ・23R 帖佐 芽依
- ・28R 松元 美緒

大自然の中を疾走

第六十五回ロードレース大会

初冬らしい凜とした空気に青空の下、十一月九日（木）にロードレース大会が桜島溶岩グラウンド及びランニングコースにおいて開催されました。生徒たちは体育の授業で約一カ月間にわたって走り込みを続けてきましたが、その成果を発揮するべくそれぞれのペースで桜島の大自然の中を駆け抜けていました。今回はPTA保健部の役員の皆さんに選手の手伝いをお願いしました。今回も多くの保護者が沿道から声援を送ってくださいました。なお、男女各学年の成績は次の通りです。

一位	23R	流合 龍之介 (33分42秒)
二位	24R	久保田 将斗 (35分14秒)
三位	25R	若松 慈久 (36分40秒)
一位	21R	下野 遥香 (19分05秒)
二位	21R	井伊 真莉菜 (20分31秒)
三位	27R	赤間 優里奈 (20分43秒)
一位	18R	浜崎 秀斗 (35分31秒)
二位	17R	川崎 夏稀 (35分35秒)
三位	14R	川崎 麗央 (36分42秒)
一位	12R	川崎 萌子 (19分28秒)
二位	18R	松下 舞 (20分41秒)
三位	15R	高風 桜子 (21分37秒)

今年も躍進継続中

部活動生の入賞・大会出場

前号で一・二年生の新体制に入った部活動生の活躍について報告しましたが、その後も続々と入賞や上位大会へ出場中です。

- 〔書道部〕 第二十八回鹿児島県高等学校揮毫大会
 - 臨書部門 高文連賞 永山 真央
 - 創作部門 高文連賞 伊集院 凜
- 〔吹奏楽部〕 第四十四回鹿児島県ソロ・アンサンブルコンテスト
 - ソロ部門 金賞 曲田 葵
 - 最優秀伴奏者賞 杉園 友理
- クラリネット四重奏 金賞
- ・諏訪園 佳綾 ・恒吉 夏樹
- ・城下 双葉 ・二石 菜侖
- 〔音楽部〕 第二十五回鹿児島県ヴォーカルアンサンブルコンテスト
 - 女声合唱 金賞
 - 百人一首部 第三三位
- 第一回全九州高等学校総合文化祭
 - 百人一首部門 第三位
- ・塚田 秋葉 ・有菌 一光 ・飯山 花梨
- ・宮田 菜奈 ・谷口 朝咲 ・速見 雅史
- ・中飯屋 桜介 ・尾辻 菜々子
- 〔山岳部〕 第八回全国高等学校選抜クライミング選手権大会
 - 第六位 川畑 イサム
 - 〔柔道部〕 第五十八回県下高等学校柔道選手権大会
 - 個人戦 男子73kg級 第三位 川原園 健太
 - 〔ラグビー部〕 第四十回鹿児島県高等学校新人ラグビーフットボール大会（九州新人大会出場）
 - 十人制の部 準優勝



2月の行事予定

2月		教室
1	木	○
2	金	○
3	④ 悠学講座⑨	×
4	⑤	×
5	月 推薦・帰国生徒等入学者選抜 1,2年:1,2限の授業(45分) 3年:平常授業	×
6	火	○
7	水 45分授業	○
8	木	○
9	金	○
10	④	×
11	⑤ 建国記念の日	×
12	⑥ 振替休日	×
13	火 1,2年:弁論大会(4限カット) 1,2,3,5,6,7,(4)限の順で授業	○
14	水 7限カット	○
15	木	○
16	金 学年末考査時間割発表 1・2年進路講演会	○
17	④	×
18	⑤	×
19	月 学年朝会	○
20	火	○
21	水	○
22	木 3年特別授業終了	○
23	金 学年末考査(1日目)	×
24	④ 学年末考査(2日目)	×
25	⑤ 国公立大学前期日程試験(2/25~)	×
26	月 学年末考査(3日目)	×
27	火 学年末考査(4日目)	×
28	水 1,2年:1,2,3,4限の授業 卒業式予行,同窓会入会式	○

教員相互授業参観週間